2025年5月30日

各　位

会　社　名　株式会社アストロスケールホールディングス
代表者名　代表取締役社長兼CEO　岡田　光信
（コード：186A　東証グロース市場）
問合せ先　取締役兼CFO　松山　宜弘
（TEL. 03-3626-0085）

本田技術研究所との衛星給油口接続システムの共同開発に関するお知らせ

当社の日本連結子会社である株式会社アストロスケール（以下、アストロスケール）が、軌道上サービスの一つである衛星への燃料補給の実現に向け、給油口接続システムを株式会社本田技術研究所（以下、Honda）と共同で開発することをお知らせいたします。

１．共同開発の内容

Honda は輸送用機器開発やロボティクス分野で数多くの知見を有しています。この強みを活かし、Honda は給油口接続システムの開発を担当します。アストロスケールは Honda と共同で給油口接続システムの開発に携わるとともに、これまで獲得してきた RPO（ランデブ・近傍運用）技術と宇宙機開発実績を土台に、本システムを低軌道での化学燃料補給実証に結びつけていきます。本実証は、2029 年頃の実施を見込んでいます。なお、Honda と共同開発した給油口接続システムは、アストロスケールが 2025 年１月に採択された下記のプロジェクト（※）で使用される予定です。

（※）内閣府主導で創設され、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が推進する「経済安全保障重要技術育成プログラム（通称、K Program）」の研究開発構想「衛星の寿命延長に資する燃料補給技術」における、公募枠「協力衛星を対象とした宇宙空間における燃料補給技術の確立」

地球周回軌道は衛星やスペースデブリの増加により混雑化が加速しており、このままでは長期的に軌道を利用することが困難になると考えられています。軌道上サービスの一つである燃料補給サービスは、衛星運用者にとって、衛星の寿命を延長することで衛星機数や打上げ回数を低減することにつながります。また、燃料の制約を取り払うことで衛星のミッションの範囲や柔軟性を拡大し、新しい衛星の使い方も可能になります。

衛星の燃料補給は、当社が目指す軌道上サービス商用化に必要不可欠な要素です。Honda とは今後も戦略パートナーとして関係を構築していきたいと考えています。

２．今後の見通し

本件が当社の連結業績に与える影響は軽微です。

以上